

学びのストーリー（単元の流れ）

1次

わたしたちは、どこでどんな買いものをしているのだろう①

◎関心をもつ

- 色々なお店で買いものをしているね
- スーパーマーケットで買いものしている人が多いね。
- 〇百貨店で買いものをしている家が多いね。なぜだろう。

2次

だめだめスーパーさくらの話②

◎どこがだめなの？

- どんな品物があるかその日しかわからないのはいやだね。
- でも値段は安いよ。
- 〇百の人気の秘密がわかれば、「スーパーさくら」を救えるかも！〇百の人気の秘密が知りたい！

〇百貨店に見学に行こう！③

◎実際に店舗を見学したり、店員さんの話を聞いたりして、お店の工夫に目を向ける。

- どこにどんな商品があるかわかりやすいように案内板があるね
- 広告の品という表示がある。安いのかな

発見！〇百貨店の人気くふう ④⑤

◎見学して発見した販売の工夫を共有する。

- 種類毎に、きれいに並べていたから買いたいものが探しやすかった。
- 値引き商品や広告の品というものがあったよ。
- 旬のものや売りたいものは、入り口の近くに置いているんだって。
- 売りにげに直接関係がないのに大切にしてる工夫って？
- 売りにげに関係ないのになんのためにしているの？

なんのためにしているの？⑥ （本時）

◎品物売る以外の取り組みにも目を向ける。

- 年に2回防災訓練をしているのは、何かあった時にお客さんを誘導できるようにかな。
- トレイやリサイクルボックスを設置するのは、環境のためだね。
- そういえば、売れない野菜は肥料にするって言ってたよね。
- お客さんからの信頼を得ることを大切にしているんだね。
- 人気の秘密はわかった！これでスーパーさくらを助けられそうだね。
- みんなでアイデアを出し合おうよ。

3次

スーパーさくらを助けるアイデアを出し合おう。⑦

◎スーパーさくらを人気店にするためのアイデアを出す。

- どこに何があるかわかるように、看板があるといいんじゃないかな。
- ポイントカードを作って、サービスデーみたいのを作ったら、いいかも。
- 〇百貨店は、国産の商品が多かったよね。
- お客さんを会計の時に待たせないようにレジの数は、6台は、ほしいね。
- 旬のものや売り出したいものは、入り口の近くにしよう。
-

スーパーさくらを人気店にしよう ⑧⑨

◎スーパーさくら改善計画書を作成し、発表する。

- お店一番の目玉は、～です。
- 他のスーパーと違うウリは、～です。
- 改善計画書をU店長にみてもらいたいね。頼んでみよう。

授業デザイン

自己調整

児童の思いに沿った学習が展開できるように、授業の振り返り等を活用する。

手立てや概念

だめなパターンのソーシャルモデルを示すことで、実際の店舗の工夫や努力を際立たせ、見学の視点とする。

自己調整

スーパー再建計画を立てるための見学の視点をもたせる。

手立てや概念

どこにどんな工夫があったか、振り返りがしやすいように、店舗案内図を準備し、そこに工夫を書き込ませる。

響き合う

- 見学して、見つけた工夫を自由に発言させる。どんな意見でも認め、受け入れる受容的な雰囲気をつくる。
- 情報を交換、共有しさらに追究を深めさせる。

手だてや概念

U店長の取材記事を読み、気になったことにアンダーラインをひかせ、問いを作る。

手立てや概念

リサイクルコーナーの写真を提示したり、U店長の取材記事からキーとなる言葉を提示したりしてなんのためにその取り組みが行われているのかを考えやすいようにする。

響き合う

話し合いの素地を整える。

- 自分の考えをもつ
- 聞く指導の徹底
- 自分・友だち・生活・既習事項とつなげて考えられるように声をかける。

手立てや概念

前時までの学習を根拠にアイデアを出せるようにワークシートや教室掲示を工夫する。

高め合う

友だちの考えと自分の考えを比較しながら聞くことで、自分の考えに自信を持ったり、考えを広めたりする。

高め合う

これまでの学習をもとに根拠をきちんと示すことで、相手に自分の考えが伝わりやすい、納得されやすい考えになることを学ばせる。

評価規準／評価方法

【学びに向かう力・人間性】

- 店の売りをげを高める工夫について予想し、学習の見通しを立てて主体的に追究しようとしている。

【知識・技能】

- 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売りをげを高めるよう工夫して行われていることを理解している。

【学びに向かう力・人間性】

- 売り方以外のスーパーマーケットの工夫について知り、販売に携わる人は、地域のお客に信頼されるお店づくりに努めていることを理解している。

【思考・判断・表現】

- 販売する側の仕事の工夫と消費者の願いを関連づけて考え、根拠と理由をもって再建計画を考えている。

願う子どもの姿

- 自分の思いや考えを持ち、それを表現できる姿。
- 友だちの考えと自分の考えを比較し、考えを広げたり、深めたりする姿。
- 販売に関わる仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売りをげを高めるように工夫していることを理解し、買い物をする時などは地域の消費者の一人として社会を見ようとする姿